

7月31日現在の果実の肥大は「日南1号」は平年並み、「興津早生」、「大津4号」及び「青島温州」は平年より進んでいます。

極早生、早生温州は8月上旬、普通温州は8月中旬に仕上げ摘果を行いましょう！

1 令和2年7月の気象

令和2年7月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は、第1、第2半旬が平年より1.1～1.3℃程度高く、第3、第4及び第6半旬が平年より1.0～2.6℃低く、第5半旬は平年並みであった。月平均気温は23.9℃で、平年より0.5℃低く、前年より0.4℃高かった。

降水量は、第1～第4半旬が平年より多かった。月合計は405mmで、平年の209%、前年の139%であった。

日照時間は、いずれの半旬も平年より少なかった。月合計は76時間で、平年の45%、前年の72%であった。

表1 令和2年7月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	23.8	22.7	22.5	69	37	109	14	21	5
2	24.6	23.3	20.2	70	44	37	8	23	13
3	22.9	24.4	21.3	80	38	82	12	25	6
4	22.1	24.7	23.7	156	24	23	13	28	10
5	25.1	25.1	25.5	9	25	3	10	32	21
6	24.8	25.8	27.0	23	27	38	19	42	49
平均/計	23.9	24.4	23.5	405	194	291	76	169	105

2 果実及び樹の生育

南房総市内の2か所の園地と暖地園芸研究所における温州ミカンの園全体の着果量は、早生温州、普通温州ともに昨年より少なく、裏年の傾向である。7月31日における調査園の果実生育状況を表2に示した。横径は「日南1号」が4.6cm、「興津早生」、「大津4号」及び「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ4.2cm、4.0cm、4.1cmであった。「日南1号」は平年及び前年と同程度であった。「興津早生」は平年の108%、前年の117%であった。「大津4号」は平年及び前年の108%であった。「青島温州」は平年の111%、前年の108%であった。

縦径は、「日南1号」が3.8cm、「興津早生」、「大津4号」及び「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ3.7cm、3.4cm、3.5cmであった。「日南1号」は平年の95%で、前年と同程度であった。「興津早生」は平年の106%、前年の112%であった。「大津4号」は平年及び前年の110%であった。「青島温州」は平年及び前年の109%であった。

果形指数は、「日南1号」が1.2、「興津早生」、「大津4号」及び「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ1.1、1.2、1.2であった。いずれも平年及び前年と同程度であった。

病害虫の発生状況は、7月中旬からチャバネアオカメムシの飛来数が増加している。

表2 果実の生育（令和2年7月31日）

品 種	調査地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	暖地園研	4.6	4.6	4.5	3.8	4.0	3.8	1.2	1.2	1.2
	三芳地区	4.3	3.8	3.6	3.8	3.4	3.3	1.1	1.1	1.1
	千倉地区	3.8	3.9	3.6	3.3	3.5	3.2	1.2	1.1	1.1
	暖地園研	4.4	3.9	3.7	3.9	3.5	3.3	1.1	1.1	1.1
	平 均	4.2	3.9	3.6	3.7	3.5	3.3	1.1	1.1	1.1
興津早生	三芳地区	3.7	3.7	3.7	3.2	3.2	3.1	1.2	1.2	1.2
	千倉地区	4.2	3.8	3.6	3.5	3.2	3.1	1.2	1.2	1.2
	暖地園研	4.2	3.7	3.8	3.4	3.0	3.1	1.2	1.2	1.2
	平 均	4.0	3.7	3.7	3.4	3.1	3.1	1.2	1.2	1.2
大津4号	三芳地区	3.8	3.7	3.9	3.3	3.2	3.3	1.2	1.2	1.2
	千倉地区	4.2	3.7	3.7	3.5	3.2	3.2	1.2	1.2	1.2
	暖地園研	4.2	3.7	3.8	3.6	3.1	3.2	1.2	1.2	1.2
	平 均	4.1	3.7	3.8	3.5	3.2	3.2	1.2	1.2	1.2
青島温州	三芳地区	3.8	3.7	3.9	3.3	3.2	3.3	1.2	1.2	1.2
	千倉地区	4.2	3.7	3.7	3.5	3.2	3.2	1.2	1.2	1.2
	暖地園研	4.2	3.7	3.8	3.6	3.1	3.2	1.2	1.2	1.2
	平 均	4.1	3.7	3.8	3.5	3.2	3.2	1.2	1.2	1.2

各地点の各品種の値は40果の平均
果形指数は、横径／縦径

8～9月の栽培管理

(1) 摘果

極早生、早生温州は8月上旬、普通温州では8月中旬（粗摘果の1ヶ月後）に仕上げ摘果を行う。摘果程度は1果当り葉数で極早生、早生温州は25～30枚、普通温州は20～25枚とする。着果が少なく果実が大玉である場合は、仕上げ摘果は行わずに収穫1ヶ月ほど前の樹上選果のみとする。

着果量が中程度の場合は間引き摘果を行い、小果、大果、内成り、すそ成り、奇形果などを優先的に摘果する。

着果量が多く、粗摘果の際に枝別全摘果を行った樹では、着果させる枝についても小果、大果、内成り、すそ成り、奇形果などを軽く摘果する。

(2) マルチ資材の被覆

高品質果実の生産にマルチ栽培は有効である。マルチ栽培の適地は、水はけと日当たりが良く、着果量が中程度以上の園地である。

被覆は、梅雨明け後の土壌が少し乾燥してきたことを確認した後に開始する。また、降雨のない期間が続き、土壌が過剰に乾いている場合は灌水を行う。灌水設備のない場合は、通路のみを被覆するなど、雨水が土壌に入るように調節する。

(3) 主な病害虫の防除

1) かいよう病

かいよう病の多発園では、梅雨時期や台風前の銅水和剤散布を心がける。ただし、銅水和剤はマシン油乳剤、デランフロアブルとの近接散布により薬害が生じやすいので、2週間は散布時期をずらす。

2) 黒点病

黒点病は幼果期から成熟期にかけて感染、発病する。病原菌は樹上・園内及び周辺の枯枝で降雨等による水滴によって伝染するため、梅雨入り前に樹上の枯れ枝の除去や薬剤防除を行う。ジマンダイセン水和剤／ペンコゼブ水和剤の付着量は降雨により減少するため、前回散布後の積算降水量が200～250mmに達したときか、前回散布の約30日後に再散布する。

3) ミカンサビダニ

6月頃から9月まで果実を加害する。被害の拡大を防ぐため、果実1～2個の被害を見たら直ちに防除する。特に、樹冠の内部・上部など薬剤のかかりにくい部分に発生が多いため、摘果時に注意深く観察する。

4) ミカンハダニ

果実や葉を加害する。重要な防除時期は梅雨明け期であるが、気象条件によって早晚があるので注意する。寄生葉率が30%以上になった時点で速やかに薬剤を散布する。

5) ミカンハモグリガ

隔年結果している樹や苗木等、夏枝の発生が多い樹において発生が多い。モスピラン水溶剤等殺虫剤を散布する。

※極早生温州等、収穫の早い品種については農薬の使用から収穫までの日数に注意をする。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>